柿葉の安定生産体系の確立

要約

柿の葉寿司用の柿葉生産を、既存の柿果実生産園を柿葉生産園に転換して栽培を始めたが、既存園の柿の栽植密度では面積あたりの収穫量が少ないため、柿果実生産と同等の収益を確保できないことがわかった。

そこで、柿果実生産と同等の収益を確保することと、作業性のよい園地作りを目指し、栽植密度や樹の仕立て方を検討する展示圃を設置するとともに、調査結果に基づき、柿葉生産栽培暦の改訂を行い、柿葉の安定生産体系を確立した。

現状（背景）と課題

・１樹あたりの商品化率（柿の葉寿司用）が低く、既存の柿園の栽植密度では、面積あたりの収穫量が少ないため、柿果実生産と同等の収益が確保できていない。

・柿果実生産と同等の収益を確保することと作業性のよい園地作りを目指しているが、柿果実と同等の収益を確保するために必要な栽植密度や、効率的な柿葉生産に適した樹の仕立て方の検討が十分ではない。

目標

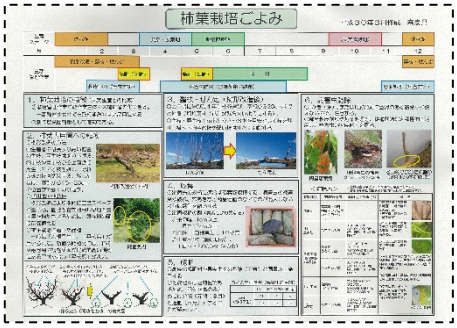
・低樹高に仕立てた柿葉専用園で、柿果実並の収益を確保できる安定生産体系の確立

活動内容

・収益を確保できる栽植密度を検討するための展示圃の設置と栽培指導
・柿葉生産の普及に向けた栽培方法の提案
・耕種的な害虫対策の検討
・県内産柿の葉の出荷先の開拓

成果

・柿葉栽培面積　９０ａ（H26）→２４０ａ（H29）
・柿葉出荷枚数　２３．６万枚（H26）→３０．５万枚（H29）
・柿葉生産栽培暦の改訂
・Ｈ３０年から新規で柿葉生産を始める生産園
　柿の葉寿司用新植園：約３０ａ
　柿の葉茶用など（既存柿園からの転換）：約２００ａ



柿葉栽培検討会

柿葉生産専用新植園

普及活動のポイント

・既存の柿園の栽植密度では柿果実生産並の収益をあげることができないことがわかったので、柿果実並の収益を確保するための栽植密度を検討する展示圃を設置した。
・県内の柿の葉寿司メーカーからの柿葉出荷規格や条件の情報を収集し、生産農家とのマッチングを行った。

対象の変化

・普及が継続して支援を実施することで、柿葉栽培を始めた生産者（法人）の生産意欲も高まった。
・柿葉栽培の情報を柿農家に情報提供することで、少しずつではあるが、興味のある生産者からの問い合わせも増えた。

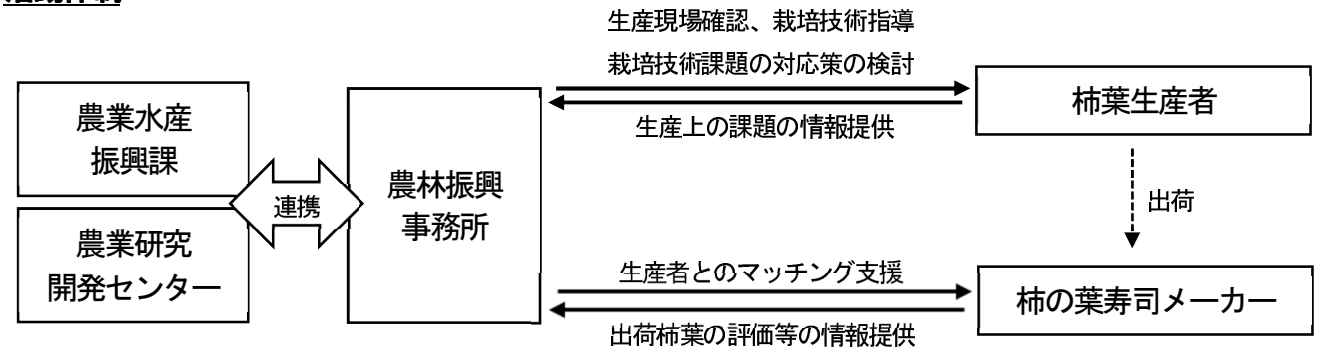
対象者からのコメント

・柿葉栽培の推進支援を継続して行ってくれることはありがたい（農事組合法人）。
・柿の果実生産に加えて、新規で柿葉栽培を始める際に技術情報や栽培支援をしていただけるのはありがたい（柿農家）

これからの活動ビジョン

・低樹高に仕立てた柿葉専用園で、柿果実並の収益を安定的に確保できる生産体系をできるだけ早期に確立する。
・柿葉の安定生産体系が確立した後は、柿果実生産の補完品目として推進する。

活動体制



用語解説

柿の葉寿司用の柿葉
　渋柿（平核無、刀根早生など）の葉が使われている。
　葉の大きさは、柿の葉寿司メーカーの寿司飯の大きさによってことなるが、概ね柿葉の横幅が１１ｃｍ以上のもの使用されている。

南部農林振興事務所農業普及課
担当：農産物ブランド推進係　廣野
奈良らしい地域ビジネス促進事業